

2022 年度（令和 4 年度）事業報告

社会福祉法人藤心会

はじめに

社会福祉法人藤心会は、地域における介護サービスを提供する広域的法人として、「快風苑」、「ふじの郷」、「結いの丘」という3つの特別養護老人ホームの施設を運営し、その事業の円滑な運営に、役員並びに職員が一丸となって取り組んでおります。

各施設においては、各々の事業計画に基づき積極的に事業を推進し、介護サービスの充実と効率的な業務の執行に努めております。

2022年度は、法人運営の更なる円滑化のため、3施設の連携を図り、法人本部機能の強化・充実を進めてまいりました。

ここに2022年度の法人本部の取り組みと、各施設における事業を報告いたします。

I 法人本部

(1) 理事会の開催

第1回	2022年6月1日	<ul style="list-style-type: none">・ 2021年度事業報告及び同年度収支決算について・ 評議員選任・解任委員の選定について・ 次期役員候補者について・ 次期評議員候補者について・ 副理事長を置くことについて (定款・定款細則の改定)・ 主たる事業所の変更について (定款の改定)・ 役員報酬について<ul style="list-style-type: none">(1) 役員報酬規程の改定(2) 役員報酬総額(年額)及び役員の報酬の額・ 「育児介護休業等規程」の改正について・ 「職員の退職金に関する規程」の改定について・ 定時評議員会開催日程及び議案について・ 理事長の職務執行状況の報告について
第2回	2022年7月15日 (決議の省略)	<ul style="list-style-type: none">・ 特別養護老人ホーム「結いの丘」施設長交代について
第3回	2022年9月16日 (決議の省略)	<ul style="list-style-type: none">・ 「育児・介護休業等規程」の改定について・ 「組織規程」の改定について・ 「介護職員等処遇改善手当支給規程」の改定について・ 「給与規程」の改定について
第4回	2022年12月23日 (決議の省略)	<ul style="list-style-type: none">・ 2022年度(令和4年度) 第1次補正予算
第5回	2023年3月22日	<ul style="list-style-type: none">・ 理事長・副理事長の職務執行状況の報告について・ 2022年第2回補正予算(案)について・ 2023年度事業計画(案)及び同年度当初予算(案)について・ 特別養護老人ホーム「快風苑」施設長交代について・ 特別養護老人ホーム「結いの丘」施設長交代について

(2) 評議員会の開催

- 定 時 2022年6月16日
- ・ 2021年度事業報告及び同年度計算書類（貸借対照表及び収支計算書）並びに財産目録について
 - ・ 副理事長を置くことについて
（定款及び定款細則の改定）
 - ・ 主たる事業所等の変更について（定款の改定）
 - ・ 役員等の報酬について
 - (1) 役員報酬規程の改正について
 - (2) 役員報酬総額（年額）及び役員報酬等の額について
 - ・ 監事の選任について

(3) 給与計算等のアウトソーシング導入

2022年9月より、給与計算、社会保険手続き、年末調整等を、「Toma 社会保険労務士法人」に業務委託することとし、事務処理業務の軽減を図った。

(4) クレド経営導入プロジェクトチームの発足

職員・地域など、法人に関わるすべて関係者の満足の実現と、藤心会の安定的な継続・更なる飛躍を目的として、職員の意識調査の実施と、3施設の役職職員14名を中心とする「クレドプロジェクトチーム」を招集して検討会を実施した。

(5) 主たる事業所の変更、従たる事業所の廃止

主たる事務所を2022年11月1日付で[横浜市保土ヶ谷区]から[藤沢市遠藤]に変更するとともに従たる事業所を廃止した。

(6) 国の補助金を活用し、「ふじの郷」のICT化、Wi-Fi環境・ナースコールの更新等を進めた。

(7) その他

- ・ 各事業所におけるコロナ感染への対応と、感染拡大防止策を進めた。
- ・ 各事業所の職員不足に対応するため、人材募集・確保に努めた。
- ・ 「快風苑」及び「ふじの郷」の設備老朽化への対応を図った。
- ・ 「結いの丘」の経営及び組織運営の安定化を図った。

II 特別養護老人ホーム「快風苑」

特別養護老人ホーム「快風苑」は、18年目となり、着実に事業を推進しております。

2022年度は施設内で新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生もあり、より一層の感染対策に追われる一年となりましたが、職員一丸となって、安全・安心な施設運営を目指し、介護サービスの充実強化に努めてまいりました。

ここに、2022年度の各部門の取り組み目標に対する評価・課題について報告します。

(1) 2022（令和4）年度 各部門の重点目標に対する年度末評価・課題

	2022年度の目標	具体的な取り組み	年度反省・課題
事務	① 施設内設備の老朽化に対する確な対応を実施していく ② 事務職員の業務に対する分担の割り振りを再確認し、実施する ③ 他部署との連携を今以上密にし、円滑な運営を実施する	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備の老朽化による修繕及び入れ替えを早期に検討する 算定できる加算の見直し、少減できるコストの見直しなどにより、収益の改善につなげる 他の部署との連携を取り LIFE のフィードバックを活用した PDCA サイクルの推進とケアの質の向上につながる環境を整える 	<ul style="list-style-type: none"> 給湯ボイラーの故障により、入替工事が必要となった 光熱費の高騰が著しく、電気・ガスともに使用量は前年比微減に対し、電気代 1.5 倍ガス代 1.8 倍となっている。それに加え、消耗品等の値上げも続いており、使用方法の見直しだけではカバーできない。職員に現状を伝え、コスト意識をもってもらった必要があった LIFE 送信の流れは定着してきたと思う。ただ、フィードバックがなく、PDCA サイクルの推進につなげることができなかった
生活支援	①（相談）情報共有不足の改善 ②（栄養）個別ケアの充実（食事形態の見直し、行事食・個別対応の検討）	<ul style="list-style-type: none"> 各課への連絡内容、情報を流すタイミング、誰にどのように伝えるか等、伝達の仕方を見直すことで、円滑な情報共有を図る 定期的に食事形態を見直し、適宜変更することで、入居者個々の身体状況の変化に対応する 	<ul style="list-style-type: none"> 各部門が求めている情報を把握し、関係機関からの情報収集を行ってきたが、認識の違いなどがあり、情報不足の点が多かったと感じている 食事形態の見直しは定期的に行えるようになったが、全体的な見直しとしては不足している部分がある

看護	<p>① 看護業務の見直しを行い、日常のケアの充実を図り健康状態の把握、異常時の早期対応に繋げる</p> <p>② 記録の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務の時間配分・内容を見直す。ケアの統一と情報交換を密にする ・ スキンケアや口腔ケアに積極的に介入する ・ 記録マニュアルの作成と定期的な監査を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入浴時の処置の入り方、バイタル測定方法、ケアの評価など見直しされた点も多いが、軟膏処置の変更・評価など曖昧な点が多い ・ 週2回のフルバイタル測定が定着したことで、個々の状態把握、早期の異常察知につなげることが出来た ・ 記録内容の根拠と結果が不足している。マニュアルは作成途中。 ・ 足趾の水虫、剥離は減少傾向にあるが、季節的な乾燥による掻き壊しに対しては保湿ケアの強化が必要である
介護	<p>① 安定した質の高いケアの提供、信頼される施設を目指す</p> <p>② 感染予防対策の徹底、感染症を持ち込まない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各部署情報を共有し密にコミュニケーションを取ることで統一した質の高いケアを目指す ・ 不快感のない丁寧な声掛けを意識する。 ・ スタンドアードプリコーションを徹底し感染症を持ち込まない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報共有し密にコミュニケーションを取ることで解決できたこともあるが、質の高いケアにつなげられたかはまだまだである また、明らかな職員不足により、全体的なモチベーションを保つことが困難になってしまった部分があった ・ 『感染症を持ち込まない』という点に関しては、クラスターが2回発生し、職員の疲弊もあり悪循環になってしまった部分があった

(2) 2022年度の入居者・退居者等の状況

特別養護老人ホーム 快風苑

1. 利用者の状況

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	465	496	458	493	443	467	496	473	465	479	448	496	5,679
女	1554	1607	1604	1655	1598	1572	1627	1593	1663	1669	1474	1656	19,272
計	2019	2103	2062	2148	2041	2039	2123	2066	2128	2148	1922	2152	24,951

2. 上記利用者の介護度別 平均介護度 3.9

■実人数

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護度5	21	21	22	21	21	21	21	20	20	21	21	19	249
介護度4	25	24	22	23	23	21	23	24	23	24	24	27	283
介護度3	21	22	23	24	24	26	24	24	24	24	24	23	283
介護度2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
介護度1	0												0
計	68	68	68	69	69	69	69	69	68	70	70	70	827

3. 2023年3月31日現在における待機者数 名

4. 2021年度新規入所者の状況

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
在宅			1		1	2	2			1		1	8
療養医療施設													0
他医療施設				1				1			1	1	4
介福祉施設				1									1
介保健施設											1		1
その他	1	1	1			4				1			8
計	1	1	2	2	1	6	2	1	0	2	2	2	22

5. 退所者状況

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
死亡		2	1	2	5	1	1	1	1		2	1	17
長期入院							1						1
他施設													0
計	0	2	1	2	5	1	2	1	1	0	2	1	18

6. 短期入所利用者状況

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員	14	15		13	3	17	17	19	8	13	14	14	147
延人員	167	166	85	123	21	132	129	126	32	68	110	103	1,262

7. 上記利用者の介護度別延べ人数 平均介護度 3.03

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護度5	9	9	2	9	3	12	8	8	6	5	12	12	95
介護度4	32	37	7	6		5	9	21	12	14	37	28	208
介護度3	112	91	42	80	18	77	65	51	6	30	32	31	635
介護度2	11	16	22	28		38	47	44	8	19	29	32	294
介護度1	3	13	12					2					30
要支援2													0
要支援1													0
計	167	166	85	123	21	132	129	126	32	68	110	103	1,262

(3) 2023 年度 各部門の目標と取り組み

快風苑では、【「入居したい・入居させたい・働きたい」施設を目指して】をスローガンに、笑顔あふれる家庭的な施設を目指します。

	2023 年度の重点目標	具体的な取り組み・数値目標
事務	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設・設備・備品の計画的な保守・管理 ② 地域交流の活性化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設修繕やBCP 対策について、境木の丘と共通認識を持ち、計画的に進めるために、3 か月に 1 回程度の話し合いの場を設ける 感染症発症時・災害時等において、フロア業務が滞らないよう物資を確保し、その情報を共有する ② 新型コロナの 5 類移行に伴い、地域清掃を再開するとともに、情報を収集し、新たな地域貢献の機会を増やす
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 入居率の安定化を図る ② 各種行事の工夫・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ① 他部署との情報共有を効率的に行い、第 2 号被保険者、単身者、精神病院などからの受け入れを積極的に検討する ② 新しい生活様式を踏まえ、快風苑祭など、主要行事の復活・充実の他、個別対応の食事行事や新たな食事レクリエーションを充実させる
看護	<ul style="list-style-type: none"> ① ケア手順・処置の統一と、評価・再計画プロセスの定着 ② アセスメント・経過記録の工夫・評価 ③ ご家族との信頼関係を築く 	<ul style="list-style-type: none"> ① 処置表を改善し、手順の明記、評価の共通認識ができる経過表(仮)を作成し、計画性のあるケアを行う。(5 月中旬に始動) ② 毎月、記録監査の時間を 30 分設けてお互いに客観的に評価し、他部門が見ても分かる記録を残す ③ 面会や受診時などを利用し、ご家族との会話の機会を作るなど、積極的に関わる(入居者のご家族がなんとなく浮かぶまでが目標)
介護	<ul style="list-style-type: none"> ① 開かれた『新しい介護部門』の再構築 ② 感染症との共存 ③ 積極的な加算の取得と経費削減 	<ul style="list-style-type: none"> ① 会議などに積極的に参加してもらい意見を抽出し、士気の向上、安定したケアの提供につなげ、働きやすい環境づくりを進める ② 感染症が発生した場合に、迅速かつ的確な対応ができる体制づくりを強化し拡大防止に努める ③ 引き続き経費削減(できる限りの節電、エアコンの温度設定、おむつ代の削減など)に取り組むとともに新しい加算の取得を目指す(排泄、褥瘡)

Ⅲ 特別養護老人ホーム「ふじの郷」

特別養護老人ホーム「ふじの郷」は、コロナ禍の中で、感染症対策を継続し、安全・安心な生活の場を維持しつつ、安定した施設運営はもちろんのこと、やりがいがあり、働きやすい職場環境を創造と介護サービスの充実強化に努めて参りました。

ここに、2022年度の各部門の取り組み目標に対する評価・課題について報告します。

(1) 2022（令和4）年度 各部門の重点目標に対する年度末評価・課題

	2022年度の目標	具体的な取り組み	年度反省・課題
事務	<ul style="list-style-type: none"> ○補助金等の有効活用により優先度の高い物から建物・備品の修繕及び更新を行う ○スキルアップ ○円滑な事務処理 ○経費削減 ○安全・安心・正確な送迎 ○安全・清潔・快適な施設の達成 ○入居者が喜ぶ施設の達成 	<ul style="list-style-type: none"> ○大規模修繕補助金を活用し、ナースコール設備の更新、電話設備、Wi-Fi環境の構築を図り、業務効率の改善、新規加算取得に向けた整備を行った ○役職者の入れ替わりがあったが、ノウハウを共有できなかった ○無事故・無違反を継続されている。 ○クラスター発生時、感染防止対策に迅速かつ臨機応変に対応することが出来た ○年間計画に則り作業を進めることができた 	<ul style="list-style-type: none"> ○L I F E加算取得に向け準備を進め、2023年度下期より加算算定開始を目指す ○複数の担当が対応できるような業務を共有化 ○効果的な報連相とコミュニケーション ○往來の激しい路上での乗降が必要なところがあり、最新の注意を払い対応 ○ショート・受診送迎等、関係部署と連携し対応 ○人員不足を補う柔軟な勤務体制
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ○栄養マネジメント強化加算取得に向けた対応 ○口腔衛生管理加算や経口維持加算の取得に向けた対応 ○学会分類2021（食事）に沿った食事形態の見直し ○迅速かつ安定した顧客の確保と新規開拓 	<ul style="list-style-type: none"> ○人員確保に至らず、栄養マネジメント強化加算を取得の準備に至らず ○経口維持加算についても同様 ○学会分類2021（食事）に沿った食事形態の見直しも未着手 ○クラスター発生時の稼働率維持が困難であった ○2月より相談員1名増員し、新規顧客の獲得に向け居宅介護支援事業所との連携強化に努めた 	<ul style="list-style-type: none"> ○食材費の高騰もあり、メニューや使用する食材等の再検討を要する ○加算取得に向けた人員確保と準備を進める ○食事形態の変更及び食事支援のマニュアル策定 ○感染対策と稼働率の維持を両立させるための抜本的な対策が必要 ○自前の居宅介護支援事業所を開設することの再検討

<p>看護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○入居者のQOLの維持 ○看取りケアの充実 ○感染症対策の強化推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○看取り件数は増加傾向にあるが、看取り開始時期やコロナ禍で家族の意向に沿える看取りであったか、振り返りを含め課題は残る ○クラスター4回発生 	<ul style="list-style-type: none"> ○多職種による振り返りと、今後の課題抽出 ○感染拡大時期とリンクし仕方がない状況下にあったが、感染拡大を最小限に止める努力と必要な感染対策の見直し
<p>介護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○配信サービスを活用した研修の実施による職員のスキルアップ ○特定技能外国人の受け入れ。研修等計画的に実施し、快く業務できる環境を提供 ○新入職員の育成・特定技能外国人の育成を行い、業務が円滑化することで介護職員ひとり一人の負担を軽減させる 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ発生により、十分な研修が実施できなかった。配信サービスを活用し法定研修は実施することが出来た ○特定技能3名受入れ。どうにか1人でケアできる状態になってきたが、定期的な研修による指導・育成を継続する ○新人の育成、特定技能の育成は進んでいるが、退職者がいたこともあり、適切な配置に至らず、夜勤専従職員や時短パートに頼らざるを得ない 	<ul style="list-style-type: none"> ○研修の実施が不十分なこともあり、ケアの質・全体的なスキルは低下気みであるため改善が必要 ○オンライン動画研修を効果的に採り入れる ○特定技能3名については、介護福祉士の資格取得を目指し、業務ばかりに目がいかないよう、確かな知識を身に付けさせる ○適正人員の確保 ○介護ソフト導入から1年が経過し、使用することに慣れてきたので、新たな加算取得を踏まえ有効活用していく

(2) 2022年度の入居者・退居者の状況

特別養護老人ホームふじの郷

1. 入居者の状況(入院・外泊者除く)

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	14	14	14	14	14	14	14	15	15	16	16	15	175
女	58	56	56	57	57	56	57	57	54	54	56	55	673
計	72	70	70	71	71	70	71	72	69	70	72	70	848

2. 上記入居者の介護度別 平均介護度 3.88

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護度5	24	22	22	21	22	22	21	20	18	17	15	16	240
介護度4	24	24	23	23	21	20	23	24	24	25	28	26	285
介護度3	23	23	24	26	27	27	25	26	25	26	27	26	305
介護度2	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	18
介護度1													0
計	72	70	70	71	71	70	71	72	69	70	72	70	848

3. 令和5年3月31日現在における待機者数 51名

4. 2022年度新規入居者の状況

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
在宅					1	1	3	3	2	1	2		13
療養医療施設													0
他医療施設													0
介福祉施設	2			2				1		1	2		8
介保健施設											1		1
その他					1								1
計	2	0	0	2	2	1	3	4	2	2	5	0	23

5. 退居者状況

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
死亡(看取り)	1		1	1	2	2	3	4	1	3		1	19
死亡(医療機関等)											1		1
長期入院													0
他施設	1							1			1		3
計	2	0	1	1	2	2	3	5	1	3	2	1	23

6. 短期入所利用者状況

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員	44	40	46	44	29	38	38	35	46	36	37	38	471
延人員	430	423	511	527	441	476	435	378	468	422	360	396	5,267

7. 上記利用者の介護度別延べ人数 平均介護度 3.04

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護度5	42	37	55	67	42	28	19	18	17	12	7	11	355
介護度4	52	41	47	50	89	151	115	111	94	60	65	96	971
介護度3	227	228	307	297	254	250	257	220	256	234	158	169	2,857
介護度2	41	44	38	55	38	35	34	19	90	99	98	108	699
介護度1	65	73	64	58	11	11	7	10	9	4	28	12	352
要支援2					4	1	3		2	9	4		23
要支援1	3				3					4			10
計	430	423	511	527	441	476	435	378	468	422	360	396	5,267

(3) 2023年度 各部門の目標と取り組み

	2023年度の重点目標	具体的な取り組み・数値目標
事務	<ul style="list-style-type: none"> ① ムリ・ムラ・ムダを減らし合理化を進める ② 安全・安心・清潔・快適な施設管理 	<ul style="list-style-type: none"> ① 他部署との連携により、業務内容を共有し、業務効率の改善及び業務の偏りを無くす ② 年間計画に則り、施設管理の実施
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 稼働率の維持 ② 新規顧客の開拓 ③ 栄養マネジメント強化加算及び経口維持加算等の取得の為の取り組み ④ ワイズマンの活用 ⑤ 学会分類 2021（食事）に沿った食事形態の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ① 年間稼働率 97%維持 ② 他事業所・関係機関との連携により、新たな顧客確保に努める ③ 人員補充とミールラウンドの実施及び歯科医、歯科衛生士との協力体制の構築 ④ 栄養マネジメントのワイズマンへの移行及びLIFE算定の取り組み ⑤ 他事業所との共通認識ができるような食事名称及び形態の見直し
看護	<ul style="list-style-type: none"> ① こまやかな健康観察により、早期発見、悪化防止に努める ② 看取りケアの充実 ③ 感染症対策の継続 ④ 介護ソフトの有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ① 日常の健康管理をこまやかに実施し、異常の早期発見、悪化防止に努めQOLの維持に繋げる ② 退居者の9割は施設での看取りとなっているため、ACPを含めより良い看取りケアの充実に努める ③ 基本的な感染対策の継続とクラスター発生防止 ④ 各部門との情報共有を進め、新たな加算（LIFE）算定に取り組む
介護	<ul style="list-style-type: none"> ① 配信サービス等を活用し、十分な研修の実施 ② 特定技能（介護）外国人職員の育成 ③ 余裕あるシフト作成と職員確保 ④ 介護ソフトの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ① オンライン研修はeラーニングを使用したものへの参加とし、グループ別研修は実施 ② 月2回の研修を実施し、介護福祉士の資格取得を目指す。 ③ 各ユニット、常勤換算 5.4人を維持できるよう人材確保に努める。 ④ 介護ソフト導入後、概ね問題なく行えており、新たな加算（LIFE）算定に取り組む

IV 特別養護老人ホーム「結いの丘」

特別養護老人ホーム「結いの丘」は、『～さまざまな縁を結ぶ 安らぎの丘～』をスローガンに開所してから2年目、コロナ禍にあっても、安定した施設運営を目指すとともに、やりがいがあり、働きやすい環境を目指し、介護サービスの充実強化に努めてまいりました。

ここに、2022年度の各部門の取り組み目標に対する評価・課題について報告します。

(1) 2022（令和4）年度 各部門の重点目標に対する年度末評価・課題

	2022年度の目標	具体的な取り組み	年度反省・課題
事務	<ul style="list-style-type: none"> ○自部門・他部門の生産性向上に努める ○開設2年目を迎えるにあたり、安定性・継続性のある施設運営を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年より使用を開始した、サイボウズや共有システムの理解を深め、部門内での情報共有を適時行えるようにする また、部門職員が担当業務以外の業務も担うことができるよう理解を深めていく ○ご入居者のご家族に安心していただけるような施設づくりに向けて、広く施設の継続に資する情報に注意を向け施設運営を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ○サイボウズの活用によって出勤が被らない日の情報共有や入退職の情報共有が進んだ ○年度内に部門内での入退職があり、担当業務以外の業務習得まで進まなかった ○面会などでご家族のご希望に添えない部分もあった
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ご入居者支援・ご家族支援の質を高めるため、自己研鑽を図る ○自部門だけでなく、他部門の職員と更なる連携を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○ご入居者やご家族からのご意見にできる限り応えられるよう関係職員も含めて連絡調整を図る ○専門職性を高めるために自己研鑽を行うとともに、外部の研修参加機会があれば年度内で1回以上は参加し、そこでの学びを相談課間で伝達講習を行う等、活かせるようにする ○他部門と連携を図り、美味しい食事の提供の継続と、食に関するレクリエーションの充実を図る ※喫茶、居酒屋クラブの定期開催 月1～2回 食に関するレクリエーション 10回/年 嗜好調査、満足度調査 1回以上/年 	<p>[相談・介護支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設内のほぼ全ての専門職が短期間で入れ替わることとなり、ご入居者やご家族に関しても、どこにどのように連絡をしていいのかわからない、信頼関係が築けない、といった声が上がっていた ○今年度、自己研鑽を行うという意味ではクレドの開催は職業人として、法人の一人の人間としてステップアップする良い機会になった <p>[栄養]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○喫茶クラブ 月2回、居酒屋クラブ 月1回、ユニットレク（食事に関するもの） 年10回以上開催した ○嗜好調査・満足度調査を年度末に実施した <p>随時ご入居者様・ご家族・他職</p>

			<p>種に聞き取りを行いながら食形態の改善や嗜好品の提供ができた</p> <p>[機能訓練]</p> <p>○ご入居者様の状態把握のため、可能な限りユニット会議に参加し、たくさんの情報収集を行うことができた</p> <p>○リハビリの必要性の高い方と要望の高い方への対応に苦勞した（評価の基盤作りのため、こちらに時間がかかってしまった）</p>
看護	<p>○ご入居者一人ひとりを理解し、安全で快適な生活が送れるように支援する。</p> <p>○自部門だけでなく、他部門の職員さらにはご入居者のご家族との更なる情報共有・連携を図る</p>	<p>○ご入居者の体調の変化を見逃さず健康管理に努める。（異常の早期発見、医療機関との密な連携）</p> <p>○ご入居者、ご家族、職員が三位一体となった良好な関係をつくる</p> <p>報告・連絡・相談を円滑に行い、ご家族の意向、思いを汲み取り、できる限り意向に沿った寄り添う気持ち、思いやりの気持ちをもって看護を実践する</p> <p>○専門職として個々の資質を高め、チームとして行動する。感染症が発生した際には早期に正しい対策を実践し、事故発生時には再発防止策を立案し実践する</p>	<p>○目の前の業務に追われ十分に行われなかった</p> <p>○これといったルールがなかったため、円滑にはかどれなかった</p> <p>○感染症の対策・対応マニュアルを再整備した</p> <p>○書類が全員整理されておらず、十分に看護技術を発揮できなかった</p>
介護	<p>○ご入居者の尊厳の保持と、有する能力に応じた自立（自律）支援をする</p> <p>○ICT機器のさらなる有効活用を進める</p>	<p>○介護現場で求められる接遇を、研修で身に付け、ケアを行う専門スタッフとしての自覚を持ってご入居者に関わる</p> <p>○24時間シートをもとに個別ケアを行い、入居者の思いが尊重される生活が送れるように支援する</p> <p>○ICT機器のさらなる活用に向け、専門スタッフの操作技量向上を目指した研修を行う</p>	<p>○入職時研修、法定研修は行っているが、職員への意識づけが不十分で、ご家族から接遇に関する苦情あり</p> <p>次年度の課題とする</p> <p>○24時間シートの原案をリーダーが作成した</p> <p>次年度から運用開始する</p> <p>○ワイズマンに関して、項目追加や更新に関する内容をリーダー会議内で検討し、ユニット会議等で職員に周知したが、研修の開催はできなかった</p>

(2) 2022年度の入居者・退居者の状況

特別養護老人ホーム 結いの丘

1. 利用者の状況

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	897	947	968	1,039	1,012	989	992	955	961	958	855	872	11,445
女	1,674	1,799	1,816	2,004	2,045	1,995	2,014	1,951	2,000	1,979	1,825	2,069	23,171
計	2,571	2,746	2,784	3,043	3,057	2,984	3,006	2,906	2,961	2,937	2,680	2,941	34,616

2. 上記利用者の介護度別 平均介護度 3.8

■実人数

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護度5	20	21	24	25	24	23	21	20	20	18	19	19	254
介護度4	36	36	40	41	40	42	45	42	43	46	47	46	504
介護度3	33	33	34	32	33	32	33	33	31	31	30	31	386
介護度2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	23
介護度1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	91	92	100	100	99	99	101	97	96	97	98	97	1,167

3. 2023年3月31日現在における待機者数 39 名

4. 2022年度新規入所者の状況

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
在宅	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
療養医療施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他医療施設	1	1	0	0	2	1	2	0	0	1	0	1	9
介福祉施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介保健施設	2	0	5	0	0	1	0	0	1	0	0	0	9
その他	3	0	2	0	0	0	1	0	0	1	3	1	11
計	10	2	8	0	2	2	3	0	1	2	3	2	35

5. 退所者状況

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
死亡	1	3	1	1	2	1	3	1	2	3	1	4	23
長期入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
在宅復帰	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
他施設	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	1	0	5
計	1	4	1	3	2	1	4	2	2	3	3	6	32

(3) 2023年度 各部門の目標と取り組み

2023年度より組織体制の見直しを図り実施部門を設立した。

	2023年度の重点目標	具体的な取り組み・数値目標
事務	<ul style="list-style-type: none"> ① 本部機能への貢献 ② 他職種との連携 ④ 加算取得の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ① 本部業務に積極的に関与し、法人運営に貢献する。 ② 部門間の情報共有がスムーズに進められるように工夫する ③ LIFEの導入に向け、多職種との連携を強化する
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設サービス計画の作成 ② ご家族、ご利用者との信頼関係の構築 ③ 施設のオープン化 	<ul style="list-style-type: none"> ① 定期的なカンファレンスの実施による、多職種の意見を取り入れたプランの作成と交付 必要帳票の不備がないように、内部監査を実施する ② ご利用者並びにご家族のご要望を真摯に受け止め、必要な情報の共有化を図る また、リアルタイムでの情報提供に努め、タイムラグからの不安感が発生しないようにする ③ コロナウイルス感染症が5類変更されることにより、ご利用者とご家族の交流等の機会(各行事へのお誘い等)を確保することに努め、施設のオープン化を図る
実施	<p>【1on1ミーティングの導入】</p> <p>[栄養]</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 栄養スクリーニングの実施 ② 業務の効率化 ③ 学会分類2021(食事)に沿った食事形態の見直し <p>[機能訓練]</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑤ 個別機能訓練の充実 ⑤ ご入居者様とのコミュニケーションの充実 	<p>その都度によってスタイルを変えながら実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 栄養スクリーニングを軌道にのせ、基盤を作る 嗜好品・栄養補助食品について、昨年度の嗜好・満足度調査をもとに改善・提供する ② 年間を通じて業務内容を把握し、年間予定に組込む 各種レクの改善など、業務の効率化を図ることで、他職種・ご入居者様等と関わる時間を確保する ③ 他事業所との共通認識ができるような食事名称及び形態の見直し ④ 必要性の高い方(拘縮予防・ADL維持)を中心に、訓練・評価・ケアカンファレンス等の基盤となる流れを作る ⑤ 他職種との連携を密に行い、週一回はお声がけできるようにラウンドを行う
看護	<ul style="list-style-type: none"> ① 心のこもった安心できる看護・医療体制を築く ② 信頼される医療サービスを提供する 	<ul style="list-style-type: none"> ① 他部署との連携を密にし、誰が何を聞いても分かる申し送り体制を構築する ② 常に利用者のサービス視点に立った接遇に心掛け、利用者や家族との尊厳と権利を尊重する 観察とコミュニケーションにより、利用者を知り、非言語的なサインを見逃さずに捉える
介護	<ul style="list-style-type: none"> ① ご入居者様一人ひとりに応じた尊厳のある個別の支援 ② 質の高い介護の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ① 効率を求めず、一人ひとりのニーズに沿った介護サービスを提供することにより、ご入居者様が自分らしく生活できる場を目指す 職員の不適切なケアによる苦情ゼロを目指し、ご入居者様が安心して笑顔で生活できる場を作る ② 職員の育成プログラムを策定し、介護技術の向上や、認知症の理解を深めるなど、職員が自己研鑽できる場を作り、質の高いサービスの提供を目指す

